

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 「立志の会」所感について	去る2月6日、「立志の会」に参加し、感銘を受けたことがありました。
	1点目は、73人の14歳の子どもたちが震災を体験し、厳しい状況を生き抜いてきて、逞しく成長している姿。
	2点目は、「科学の限界と向かい合い命を守る」のタイトルで講演したうら若い准教授の科学者としての姿。
	以下伺います。
	(1) 「親孝行したい」「人の役に立つ大人になる」
	…「公務員になる」…。
	14歳の時点での立志の内容は様々です。73
	人の子ども一人ひとりの人生がほんとうに実り
	あるものにしたいと思います。甘えることなく
	自立へ向けてしっかりと歩んで欲しいと考えま
	すが、義務教育の責任者として伺います。
	(2) 翌日は小学校での防災教室で、だんごむし体
	操を行ったとのことですが、大震災に対しての
	多くの学者は、私から言わせれば「後付け」(貞
	観地震があり、大津波が出現、多数の人間が死
	んだ)ばかりで、学者の責任回避ばかりが目

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 地場産業について	付いてしまう。しかし、講師の地震学者である
	大木聖子さんは、力及ばずで申し訳ないという
	ことを発しました。非常に勇気のあることで、
	りっぱだと感銘しました。そしてかけがえのな
	い命を守るためのだんごむし体操、私から言わ
	せてもらえば「科学者の鏡」です。命を守る防
	災体操は町民各位にも必要なのではと考えま
	すが、いかがですか。
	また、震災遺構の議論の中で、防災のための
	教科書（副読本）の必要性を提案しましたが、
	町独自のそれはどうなりますか。県教委で来年
	度から間に合わせるように作成したようです
	が。（小３・４年向け）
	（質問の相手：教育長・担当課長）
	奥尻島と神戸長田地区、震災からの復興期を乗り
	越えてきた両地区。確かに復旧・復興のプロセスを
	経由してきた先進地。
	しかし、課題ばかりが報道される。
	過疎化とシャッター通り云々…。
	こんなはずではなかったのに？

質 問 者 佐々木 新一郎

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	さて本町の場合は大丈夫だろうか。震災以前、本町人口は毎年 200 人超減少が続いていた。震災、一気に 2,000 人超が減少、しかし、海から 2 km 圏、狭い所に多数が生活して、多くの命をなくしてしまった。
	今後は少数精鋭、コンパクトなまちづくりへ向けて、復興をなし遂げていく方向は評価したい。
	アベノミクスの「第 3 の矢」が問題なのですが、本町でも同じことが言えると思います。水産業、観光、商業等の地場産業の力が試される。
	地場産業のハード面が着々と復旧・復興局面へと進みつつあります。内面から力と言いますが、そのためにはどのような方向性で実現していきますか。
	「仏創って魂を入れず」画竜点睛を欠いてはいけません。
	どのように考えているか伺います。
	(質問の相手：町長・担当課長)